

ひとが生き生きと暮らすための情報誌

びよんど

Beyond gender

2013.3 VOL.33



幼稚鳩巣戯劇之図(複製) お茶の水女子大学所蔵 手前の和服の女性が豊田英雄だと言われています



茨城県立水戸第二高等学校校門前に建つ豊田英雄像

特集

とよだ ふゆ 豊田 英雄 日本人初の幼稚園^{ほほ}保姆 …………… 2・3

その生涯を日本の幼児・女子教育に捧げた水戸の偉人

ヒューマンライフシンポジウム2012 …………… 4・5

ひと 男女の魅力発見 …………… 6

男女平等参画推進月間写真コンテスト・男女平等参画社会づくり功労賞 …………… 7

さんかくデータ…………… 8

男女共同参画都市宣言

美しい自然に恵まれ豊かな歴史を^{はく}育んできた、わたしたちのまち水戸
わたしたちは、水戸のまちをさらに輝きあふれる明日へとつなぐため、「平等・創造・平和」を基本理念とし、男女がともにわかちあい、ともにつくる社会の実現に向け、水戸市を「男女共同参画都市」とすることを宣言します。

- 1 わたしたちは、ともに一人ひとりが尊重しあい、平等のもとに生き生きと暮らせるまち水戸をつくります。
- 1 わたしたちは、ともに自らの意思で社会のあらゆる分野に参画し、次の世代へとつなぐ豊かでゆとりのあるまち水戸をつくります。
- 1 わたしたちは、ともに地球環境を守り、世界へ向けて、友情と平和の輪を広げるまち水戸をつくります。

平成8年4月1日

水戸市

※誌名「びよんど」は1997年、公募により命名されました。 Beyond gender(性差を超えて)の思いが込められています。ジェンダーとは、社会的性別のことです。

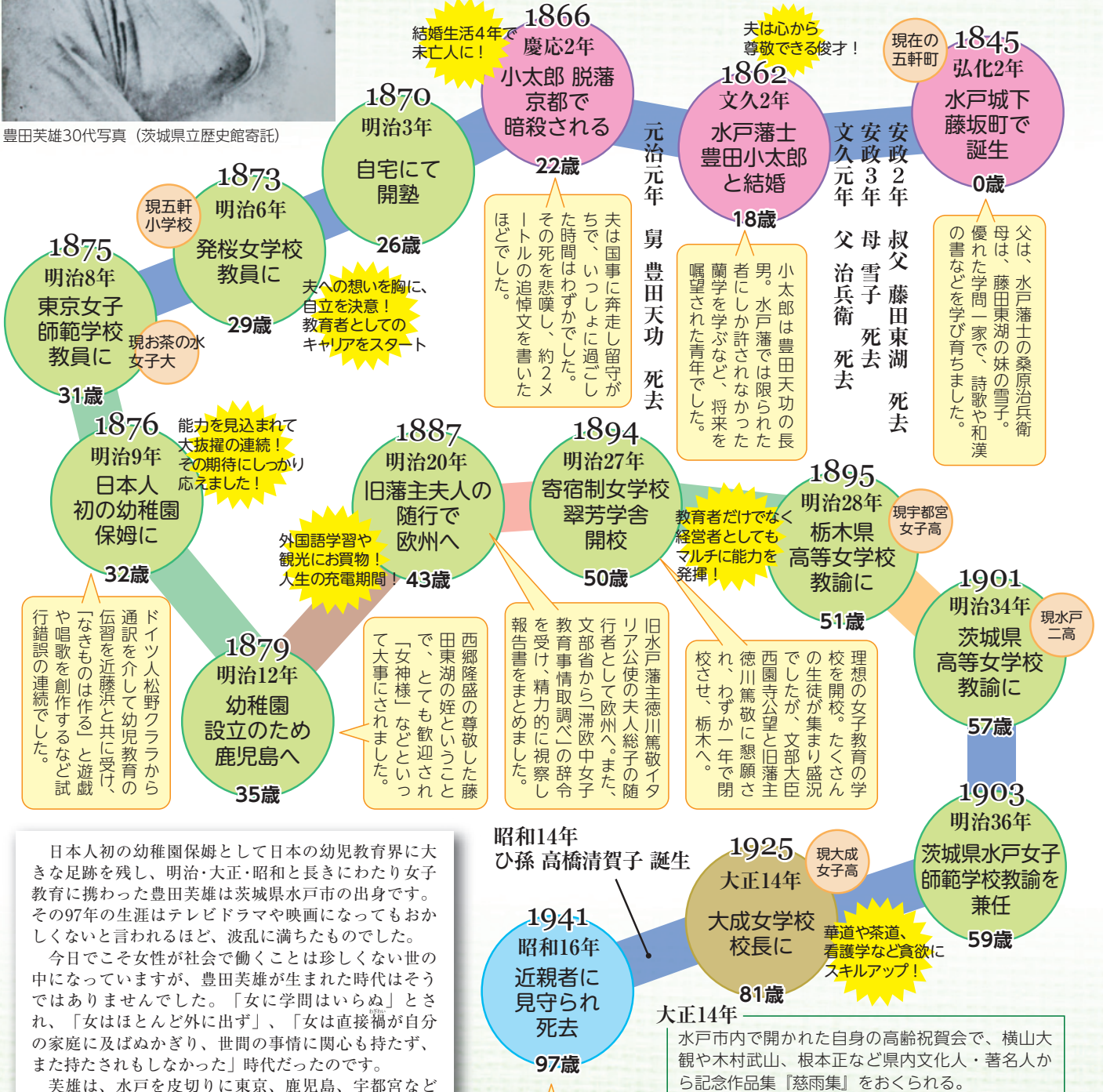


豊田芙雄30代写真（茨城県立歴史館寄託）

日本人初の 幼稚園保姆 豊田 芙雄

「心を鬼にして居れよ」

夫の遺言を胸に、幕末・明治・大正・昭和と激動の時代を駆け抜け、その生涯を日本の幼児・女子教育に捧げた、水戸の偉人豊田 芙雄。女性の社会進出の魁となった、その業績と足跡を振り返ります。



日本人初の幼稚園保姆として日本の幼児教育界に大きな足跡を残し、明治・大正・昭和と長きにわたり女子教育に携わった豊田芙雄は茨城県水戸市の出身です。その97年の生涯はテレビドラマや映画になってもおかしくないと言われるほど、波乱に満ちたものでした。

今日でこそ女性が社会で働くことは珍しくない世の中になっていますが、豊田芙雄が生まれた時代はそうではありませんでした。「女に学問はいらぬ」とされ、「女はほとんど外に出ず」、「女は直接禍が自分の家庭に及ばぬかぎり、世間の事情に関心も持たず、また持たされもしなかった」時代だったのです。

芙雄は、水戸を皮切りに東京、鹿児島、宇都宮など各地で教鞭をとっています。幼児・女子教育の草創期であるがゆえに、様々な問題や困難にぶつかり、教師として、また社会で働く一女性として苦悩することも多かったでしょう。しかし、逆境にめげずに困難を乗り越えて教育にあたり、多くの人を育て、慕われ尊敬されたのです。

大洗町幕末と明治の博物館 学芸員 尾崎久美子

毎晩いくらかつかれて居りまして、必ずその日の出納を記録し、日誌をかき、口を庭先で漱いでから就寝し、快眠に入ったようだ。そのためか九十七才の高齢でも、なほ歯並みはしっかりして居ました。先生の永眠の面容は、豊田氏に嫁してから八十年の苦闘の生涯も偲ばれず、寧ろ若々しく、清麗な、優しいものでありました。

『豊田先生と幼稚園、幼稚〔園〕教育の資料 高橋清賀子編』より



『遺族の魂で守るしかない』高橋清賀子さん

英雄が遺した多くの文書は、英雄の足跡や日本の幼児教育の草創期を今日に伝えるたいへん貴重な史料です。これら『豊田家文書』が、幕末から現在までの長い間、一族の労力だけで守られ続けてきた事実は、まさに驚愕です。「人に譲った文書もありましたが、それらは関東大震災や戦火ですべて失われてしまい、父には『遺族の魂で守るしかない』との頑なまでの信念がありました。」

英雄のひ孫で幼児教育研究家の高橋清賀子さんにうかがいました。



私は田見小路（現北見町）にあった屋敷で生まれまして、英雄が97歳で亡くなるまで、私が3歳まで一緒に暮らしました。母が私を妊娠したとき英雄はたいへん喜んで、お腹の子に良い感覚が育まれるように「美しいものを見なさいよ、優しい子どもが産まれるからね」と気遣いながら、ひ孫である私の誕生をとても楽しみにしていたそうです。

英雄は毎日、二合のお酒を晩酌していました。私が這って行って手を滑らせてこぼしてしまっただけがあつて、戦時中で大事なお酒ですから、母が同じ事をしたら「もったいない」と叱られるところですが、私はヨシヨシと咎められなかったと、そういった話をよく母から聞きましたね。



歩き始めた清賀子を抱いて



2歳になった清賀子を見守る英雄

英雄自身は子どもを産んでいませんので、乳飲み子の面倒をみるのは、私が初めてだったのかなと思っていたのですが、史料を整理していたらわかったことがあります。

英雄が12歳のときに、母の雪子が弟の政を出産して間もなく亡くなりましたので、姉の立子と二人で必死になって弟の世話を、実際に子育てをしていたのです。この経験が、後に幼児教育にたずさわるときのバックボーンになっていったんです。



▲夫小太郎の鎧とともに

夫の小太郎との少ない時間のなかで、彼から英雄へどれだけ価値のあることを語られたか。小太郎は「もっと世界に目を開いて、良いものは取り入れて」と蘭学を勉強している姿を見せているし語ってもいる。その語らいがあつての英雄の97年の生涯だったのだなと、私はそう思いますね。

小太郎との生活はたった4年ですが、普通の夫婦ではできないようなものを語って逝ったのでしょね。それが、英雄を生かしたのですから。小太郎の鎧と一緒に写真がありましたすでしょ。あれは、「二人でともに生きてきた」という英雄の強い想いを表現したのでしょね。

松野クララから幼児教育の伝習を受けるのですが、すぐに子どもを集めて幼稚園を始めるわけで、伝習と同時進行ですから。また、クララが妊娠したこともあつて伝習も不定期になっていく。

けれど、英雄は幼児教育に、不安は感じていなかったでしょうね。彼女は、案外デンと構えていたと思いますよ。近藤浜は歌や遊戯に長けていたところがあつて助かったと英雄は記していますし、英雄自身は弟で子育ての経験がありますし。

クララは8歳下、浜は8歳上、その間に英雄がいて、ちょうどバランスが良かった。それぞれ互いに尊敬できる相手だったんでしょね。

私は、文書を守ってきたというよりは、守らされちゃったところですからすけれども。私の弟たちは、父が凄まじい勢いで守った事態（戦時中、文書を保管するために14メートル程の防空壕を一人で掘った。自宅隣りの製材工場が出火したとき、般若心経を唱えながら火のなかに飛び込み文書を守った。等）を覚えていないと言ってます。記憶がないと言われて非常にショックです。父が火事や水害から必死で守っている現場を覚えているのは私だけということもあり、守らなければならぬという想いにいたしました。

兄弟のうち誰が継いでもおかしくなかったのに、そこにたどり着かない。きつと英雄が「お前がやるんだ」と。やっぱり、なんとも言えず繋がっているところがあるんですね。

私にとつて英雄は、「一体」ですね。私の育った転居先のどの家にも、床の間に勲章をつけた英雄の肖像画が飾ってありました。毎晩、その英雄の絵に一日の出来事を報告しながら、会話しながら眠るのが常でした。

英雄が「私とともにある」と感じますね。人生のどの場面でも、節目や大事なところで不思議と、英雄との関わりが出てくる。見えない繋がりがあつた。それで、英雄に背中を押されたり、抱かれ守られたりと、今だにありますね。

英雄が来客時に愛用していた丸谷焼の「木米」のお茶碗で迎えてくださった清賀子さん。「自分の今の年齢で英雄の行った事を思うと、まだまだ自分も頑張らなければと勇気づけられるとおっしゃった笑顔が印象的でした。」
「縁に恵まれて、たくさんの方々のおかげで世に出ることができた。英雄も父も喜んでいてと思います。」こちらを終始気づかい、丁寧かつ朗らかにお話いただき清賀子さんに、「豊田英雄」が自然と重なりました。

開催
報告

ヒューマンライフシンポジウム2012

女と男のいきいきライフへの道—スポーツからもらう宝物—

ロンドンオリンピックの興奮と感動の余韻が残る平成24年9月29日(土)、水戸駅ビル6階「エクセルホール」にて、男女平等参画推進月間事業「ヒューマンライフシンポジウム2012」が開催されました。

世界各地のスポーツの現場で活躍する増田明美さんをお迎えし、水戸市男女平等参画基本条例にある「スポーツの場において目指すべき姿」について理解を深めました。

基調講演

夢を走り続ける女たち

スポーツジャーナリスト

増田明美さん

オリンピックをイメージした衣装で颯爽と登場した増田さん。講演はやはり、ロンドンオリンピック・パラリンピックの話題から始まりました。



「今回のロンドンオリンピックでは、初めて男子にしかない種目がなくなりましたね。女子のボクシングが加わりましたから、これで男女が全種目に出場できるという意味でも時代とともに変わってきていますね。」

水戸市出身の大津祐樹選手が活躍した男子サッカーは惜しくもメダルを逃しましたが、日本が過去最多のメダルを獲得したことについて「女子のチームスポーツが良かったですね。サッカーにバレーボール、それからアーチェリー、卓球、水泳だってメドレーで銀メダルを取りました。チームスポーツの活躍が素晴らしかったですね。」と振り返りました。

また、パラリンピックの『ゴールド』では、日本の女子チームがメダルを獲得しましたが、増田さんは、外国勢とくらべて身体的に恵まれていないにもかかわらず、丁寧、緻密、細やかという日本人らしさでゴールを守り抜いた選手たちの姿に、とても感動して涙が止まらなかったそうです。このようにこのびと元気に活躍している女性が、スポーツ界だけでなくさまざまな分野で増えているし、社会が女性のパワーを必要としていると、日頃から増田さんは感じているそうです。

現在、手軽にできるジョギングがとても人気で、年齢や性別の区別なく市民ランナーが増加しています。ところが、増田さんがジョギング専門誌の編集者に聞いたところ、欧米にくらべて市民フルマラソン大会への出場者はまだまだ少なく、女性の割合も低いとのこと。

「これ、どうしてかと考えると、やはり環境なんです。大会に行っても、女性はトイレの問題もある。それから着替える場所も。男性はバスタオルを巻いただけで着替えていますから。女性にはできないですよ。だから、そういう環境の問題があったり、子育ての中でなかなか時間がつくれないうことなどもあります。男性目線だけでは、まだまだ課題があるのかなと思います。」増田さんは出身地の千葉県いすみ市と一緒に、女性が参加しやすい市民マラソン大会を運営している経験から、誰もがスポーツを楽しめるように環境を変えていく努力が大事だと実感しているそうです。

「スポーツの場というのは、体感できることが素晴らしいと思います。何か一緒に体感することによって、そこでお互いに助け合ったり、優しさを引き出して、思いやりを持って相手に接したりすることができます。」

一緒に風に当り、一緒に汗をかきながら、若い人もご心配の方も、男性も女性も子どもも障害を持った方々もみんながスポーツで触れ合う、この空気を体感していく、そういうことができたら、それが確かなものになっていくのではないかと思います。

ぜひこれからも千波湖の周りで軽く走ったり、借楽園などを歩いたり、またいろいろスポーツをして、楽しんで豊かに暮らしてもらいたいと思います。『自分という人生の長距離ランナー』だと思えます。自分の道に向かって、朗らかに進むことができたら素敵ですよ。」と、暖かく微笑みかけてくれました。



びよんど

じゃんけん大会で
ホーリーくん登場!!



ワクワクドキドキ!!
開場を待つお客様

トーク&トーク スポーツからもらう宝もの パネリスト

スポーツジャーナリスト

増田明美さん

(株)FC水戸ホーリーホック

代表取締役社長 沼田邦郎さん

コーディネーター

フリーアナウンサー

渡辺美奈子さん

増田さんとフットボールクラブ水戸ホーリーホック(以下MHH)沼田社長の熱血トークと渡辺さんのさわやかな進行で、活気のあるトーク&トークとなりました。



沼田社長は、年々知名度が上がりチームゲーム観客数が増加しているものの、まだまだ少ない現状について「クラブの価値をいかに上げるかということが一番大事なことと思っています。また来たいと思わせる、感動を与えるようなクラブにしていかななくてはならないなと思っています。我々は、子どもたちのためにも、夢があるようなクラブにしていきたいという想いでやらせていただいています。」

増田さんは、アメリカで二年間ト

レーニングしていたときの経験から「こちらはアメリカンフットボールがすごい人気で、ホームステイ先の家では日曜日になると朝からグラタンスープとサンドイッチを作るのです。ウキウキしながらピクニックに行くような気持ちで大学生のアメフトを観に行く。どの家族も観るといふ目標にあわせて、すべてを楽しんでいるのです。スポーツを観る文化というのが根付いていましたね。日本ではまだまだだなど思っていたのですが、今からMHHの試合を観に行ったら楽しいでしょうね。」



渡辺さんは、以前にMHHの試合でケーズデンキスタジアム水戸が万人の観客で満員になったとき、高揚感と一体感でなんとも言えない感動が味わえたと振り返り「達成感、苦労したその先にあるものというのがスポーツの醍醐味だと思いますが、これはなにも自分がスポーツをするだけでなく、一緒に応援する、関わる、みんなで盛り上げるところでも伝わってくるかと思います。」
笑顔と元気があふれるトークが時間いっぱい繰り広げられ、盛況のうちに閉会となりました。

スポーツで水戸を元気に! 水戸ホーリーホックの 地域貢献活動

MHHでは「人が育ち、クラブが育ち、水戸が育つ」の理念のもと、地域に根ざしたスポーツクラブを目指し、積極的に地域貢献活動に取り組んでいます。



清掃活動

東日本大震災以降は、復興支援プロジェクトのひとつとして、県内各地でサッカー教室を開催し、子どもたちに元気と勇気を与えています。



サッカー教室

市民クラブとして存在感が増しているMHHは、Jリーグへの昇格だけでなく、地域の活性化の担い手としても期待されています。

ひと 男女の魅力発見

謙虚さと使命感をもって



とうだ ただし
任田 正史さん〔茨城交通(株)代表取締役社長〕
1963年 石川県出身。民間コンサルタント会社で、電子部品会社、水産加工会社などの企業再生に携わる。(株)経営共創基盤に移籍後、経営再建のため2009年から現職。

一女性運転士を増やされていますが、お客様から好評とのことですね。

バスの運転士は、男性の仕事のように思われていたが、お客様との密度の濃い「サービス業」なので、女性運転士は、案内の声や接し方が柔らかく好評です。

一一般に「女性は車の運転が苦手」と思われがちですが？

交通法規に則って、慎重に運転するのが良い運転士と言えるので、技能的に劣ることは全くないと思います。

私たちは常々「バスは道路の上で最も謙虚な乗り物」であるべき、と言っているのですが、それを自然に実践できるのが女性ではないかと思えます。

一女性の繊細さや優しさは、大きなプラスですね。

面白いデータとしては、車内で回数券を販売しておりますが、実績は女性運転士が上位なのです。

やはり、気持ち良く乗れる運転士から買いたいと無意識に思うのでしょうか。

一運転士以外で、どのような分野で女性の活用を図られていますか？

本社には管理部門、営業部門、運輸統括部門などがありますが、男性、女性の区別なく、個々の能力に応じた業務を担当するようにしています。

一東京などの大都市での勤務経験も長いと思いますが、女性が働く環境に、大都市と地方に差を感じますか？

私も地方出身者ですが、地方は親世帯との同居も多く、共働きしやすい環境ですが、女性が男性と同じように活躍

できる機会は、大都市に比べて地方は少ないと思います。
一バス業界は大変厳しい状況ですが、公共交通機関として、どのようにして路線を維持していくお考えですか？

ダイヤの見直しや路線の新設のほか、いくつかの路線で運賃値下げなどの試行錯誤をしていますが、民間会社でいくつもの赤字路線を維持できないという現実もあります。

また、行政からの補助金にも限度がありますので、地域の皆様のご協力を頂かないと、維持は難しくなると考えています。

一災害時の公共交通機関の役割として、福島原発事故の避難者の輸送にも当たられたと聞いています。

震災当日の夜に、国から任意の要請があり、社内にいた運転士に声を掛けたところ、自分たちも大変な状況であるにも関わらず、20台のバスを出すことができました。

その時点では、現地の状況は知らされておりましたが、翌日早朝に大熊町役場に到着したら、避難者を「どこへ」ではなく、とにかく「西へ、西へ」運んでくれといった状況でした。

また、翌12日の昼頃にも要請があり、29台のバスを出しましたが、現地は運転士の生命にも関わるような危険な状況となってしまいましたので、社長命令で引き返すよう指示しました。

でも、運転士は「助けに行きたい」との使命感、そこに運ぶべき人がいれば、運ばなければならない、という強い思いがありましたし、運転士は皆、仕事のモチベーションとは、お客様からの「ありがとう」だと言います。

一いずれも大変な決断であったとお察しします。最後に、企業再生の経験から、男女がともに個々の力をいかせる環境づくりについて、ひとをお願いします。

どんなことでもそうですが、他人任せだと絶対にうまく行かず、お互いが自分の本質を見つめ、自分に何ができるかを考え、それを実行に移せるかどうかで、将来のあり方というのは変わっていくと思っています。

《インタビューを終えて》

企業再生を数多く経験してきた方だから、きっと「厳格」なのでは…との想像の中でインタビューは始まりましたが、私どもの質問に懇切丁寧に答える姿からは「厳格」ではなく、苦難を乗り越えてきた経験が醸し出す「安心感」を強く感じました。

ご自身も地方出身者ということで、「水戸は住みやすく、食べ物が美味しい。」と話す姿に、勝手ながらも親近感を覚えるとともに、本質的な「水戸の魅力」をさりげなく教えてくれたようにも感じました。



男女平等参画推進月間写真コンテスト入賞作品



最優秀

「三世代で楽しむお花見会」
平野 紀一郎さん



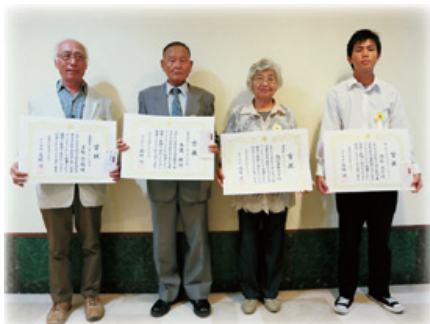
優秀

「よっていがっしょ 友人・家族でメロンの初売り」
大高 格さん



優秀

「じいちゃんもイクメンです!」
高阿田 恵代子さん



佳作

「いつでも協力は大事です」
楢崎 真智子さん



佳作

「クラスマッチ・サッカー 仲よし」
岡野 凌樹さん



男女平等参画社会づくり功労賞の受賞者ご紹介

水戸市では、平成18年度から「男女平等参画社会づくり功労賞」を創設し、男女平等参画社会の実現に向けて、あらゆる分野において積極的な取り組みをしている個人や団体、事業所を表彰しています。



個人

井川 コヅエさん

内原町議会議員を2期務めるなど、地方議会に女性の活躍の場を広げたほか、コミュニティ活動に積極的に取り組み、住みよい地域づくりをとおして女性の社会参画に貢献されています。

事業所

株式会社常陽銀行

女性が活躍できる職場環境づくりや従業員のワーク・ライフ・バランスの実現に向け積極的に取り組むほか、働きたい女性に雇用の場の提供し、女性の社会進出や地域の活性化に貢献されています。

団体

NPO法人子育て応援・ペンギんくらぶ

育児中の親が中心になり、ニーズに即したきめ細やかな子育て支援事業の企画運営や、父親の家事・育児参画、ワーク・ライフ・バランスの普及等に貢献されています。



代表 古山 みのりさん

「荣誉ある賞を賜わり、大変光栄です。ご助言やご支援を頂いた皆様に感謝申し上げます。これを励みに、今後も『あかちゃんまつり』や保育付き講座等、子育て中のお母さんやお父さんのための活動を充実させていきたいと思っております。」

さんかくデータ 「女性の力」活かしていますか

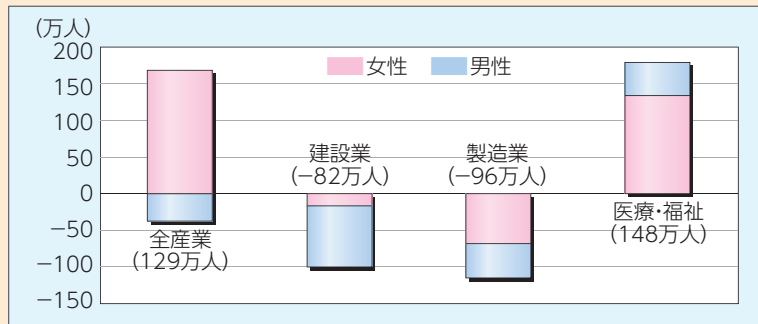
最近、「女性の力」が日本経済を活性化させるというニュースを耳にしたことはありませんか？

昨年10月にIMF（国際通貨基金）・世界銀行年次総会で来日した際の、女性初のIMF専務理事 クリスティーン・ラガルド氏のメッセージや、日本再生戦略の『～働く「なでしこ」大作戦～』（昨年7月閣議決定）でも「女性の力」に注目しています。

日本の現状としては、世界経済フォーラム（WEF）の世界各国の男女平等の度合いを指数化した「ジェンダー・ギャップ指数」によると、日本は調査対象135ヶ国中101位と大変低い状況です。その反面、国際機関の推計によれば、現状において女性の労働力率が低い国ほど女性の参画が進んだ場合の経済成長率が大きいとされていることから、他の先進国と比較し、女性の労働力率の低い日本の成長余力は大きいと見られています。

男女の雇用はどうなっているのかな？

図1 男女別産業別雇用者数の増減（平成14→21年）



- 平成14年から平成21年までに、男性雇用者は21万人減少している一方で、女性雇用者は150万人増加しています。
- これを産業別で見ると、第2次産業の「建設業」は全体で82万人、「製造業」は同じく96万人減少しているのに対して、第3次産業の「医療・福祉」は全体で148万人増えています。
- 平成21年の雇用者に占める女性の割合は「建設業」が15%、「製造業」が29%であるのに対して、「医療・福祉」では78%と高くなっていることから、産業構造の変化が女性の雇用者数を増やす方向になってきていると考えられます。

産業構造を見てみると…

表1 産業構造

区分		15歳以上 就業者数	第1次産業	第2次産業	第3次産業
水戸市	人数	117,651人	3,475人	21,880人	92,296人
	構成比①	100.0%	2.95%	18.60%	78.45%
全国	人数	56,151,013人	2,381,415人	14,123,282人	39,646,316人
	構成比②	100.0%	4.24%	25.15%	70.61%
構成比の比較 (①-②)		-	▲1.29%	▲6.55%	7.84%

*平成22年国勢調査より作成

※分類不能の産業を除く。



産業構造の面から見ても、建設業や製造業の第2次産業が減少し、医療・福祉が増加するという、女性の力が活かされる第3次産業へと変化しています（図1）。

水戸に目を向けてみると、全国と比べても、第3次産業が極めて高いことがわかります（表1）。これらのことを考えてみると、水戸は女性が活躍しやすい都市であるとも思いませんか？水戸の「女性の力」をもっと活かしてしてみませんか？

男女平等参画社会推進のために・・・

■男女平等参画推進委員会

男女平等参画社会の推進のために設置された、市民・事業者・学識経験者から構成される委員会です。総合的な施策と重要事項を調査審議します。

■男女平等参画苦情処理委員

男女平等参画に関する苦情の申し出を、公平・中立な立場に立って調査し、解決を図っていきます。詳細は、水戸市男女平等参画課までお問い合わせください。

編集後記

春はあつという間にやってきます。街ゆく人々の洋服も柔らかな色へと変化し、新たな活動が始まる予感に気持ちもわくわくします。33号のびよんどは、豊田英雄を特集しました。水戸の女子教育そして、日本の幼児教育に大きな影響を与えた彼女の精神を見習って、前向きに前進してゆける強く賢い女性になりたいものです。（Y）

発行日／平成25年3月
 編集・発行／水戸市 市長公室 男女平等参画課
 〒310-0063 水戸市五軒町1丁目2番12号
 みと文化交流プラザ4F
 TEL 029-226-3161 FAX 029-226-3162
 ホームページ／<http://www.city.mito.lg.jp>
 印刷／関東印刷株式会社